

【事業名】

-アカモズの郷-いしかり希少種保全事業（北海道石狩市）

事業の背景・目的

国内希少野生動物種に指定されているアカモズのモニタリング手法を検証し、継続した調査の実施を検討する。また、本種の生息環境状況や捕食者等の把握が定かではなく、一部のカメラマンを除き、一般からの認知以外は知名度が低い。そのため営巣地の土地管理者に対するアカモズの普及をすることで、繁殖に影響を及ぼす行為への配慮を求める土地管理者間の情報共有ネットワークの立ち上げ及び一般市民への普及啓発を実施する。

事業の内容

| ①アカモズのモニタリング手法の検討  | ②アカモズの生息に係る捕食者及び生息環境調査   | ③土地管理者間の情報共有体制の構築  | ④普及啓発啓発ツールの作成と実施  |
|--|--|--|---|
| 当該地においてボランティアベースで活動している調査の方法について、人員や人工が変更した場合でも継続したモニタリングができるように手法の検討・検証を実施する。 | 本種の生息環境について、詳しいことが分かっておらず、捕食者や繁殖阻害要因などが特定できていない。そのため、自動撮影カメラを用いた調査を実施し、生息環境等の把握に努める。 | 営巣地の多くが行政が所管する場所であり、各々が事業を実施している。そのため、繁殖への影響を最小限に抑えるために土地管理者に向けて本種の情報を共有する場や仕組みを整える。 | 一部のマナーを守らないカメラマンによる巣への近づき、アカモズや生息地に対する認知度の低さなどの現状があることから、認知度を向上させ、近隣住民が自然と見守るまちづくりを目指す。 |

得られた成果

- ①については、市民ボランティアや様々な調査者が実施していた調査手法をもとに継続性を考慮したモニタリング手法の検討を実施した。次年度以降、引き続き検討した手法を実証して、情報収集に努める。
- ②については、自動撮影カメラのデータをもとに捕食者や繁殖阻害になりうる生物情報をまとめた。また、過去の生息地情報と現在の生息地について比較し、生息状況の変遷を把握した。今後、繁殖地となりうる環境における保全へ資料とする。
- ③については、関係所管へ説明し、おおむね参加の理解を得た。なかでも、本事業による普及啓発が近隣自治体の生物多様性地域戦略への記載、事業見直しなどに反映される運びとなった。
- ④については、本市の18,137世帯を対象にアカモズの周知啓発広告を配布した。また市内教育機関からの授業、日本鳥学会、いしかり生きものかけはし座談会等において普及啓発をしてきた。また、普及啓発ツールとして本種の活動報告周知のホームページを作成し、年度明けから公開・市内回覧にて周知をさらに進める。

